



フェアトレードで未来を創る

FAIRTRADE

発展途上国の生産者と先進国の消費者が対等な立場で貿易を行い、生産者の生活の質の向上や自立を支援する貿易の仕組み

フェアトレードには**3つの柱**がある。

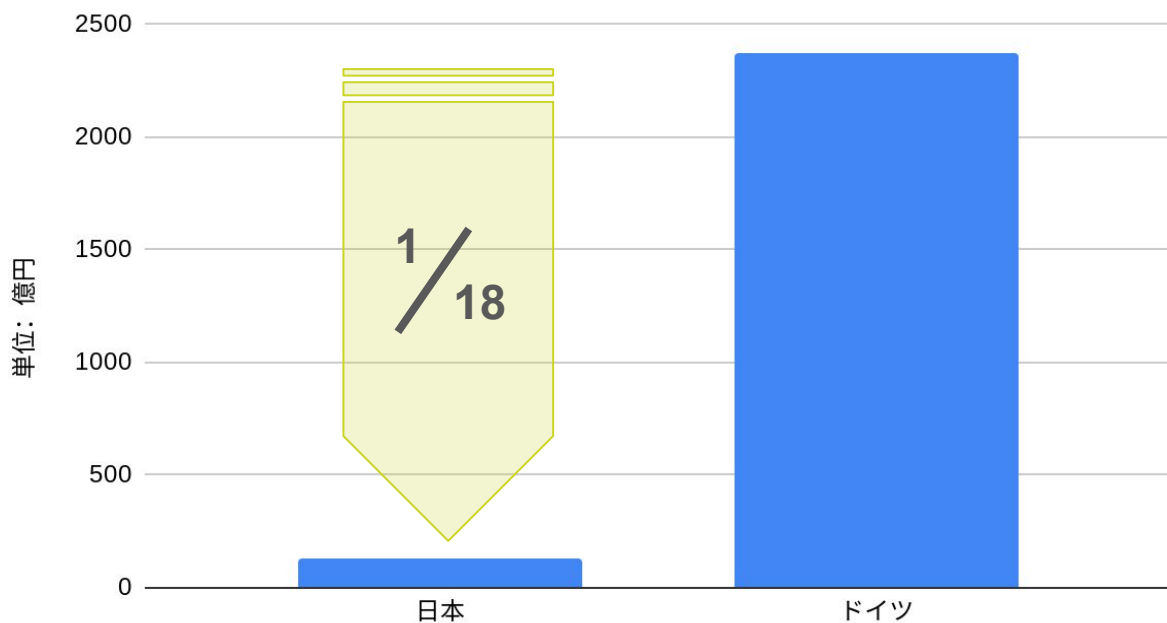
それによって

- **児童労働問題の改善**
- **生産者の健康状況の改善**
- **環境問題の改善**

などが見込める

しかし、

推定市場規模(2020)



数値はFAIRTRADE JAPANより引用
<https://www.fairtrade-jp.org/news-detail.php?id=109>

8つのゴールにも直接的に貢献する

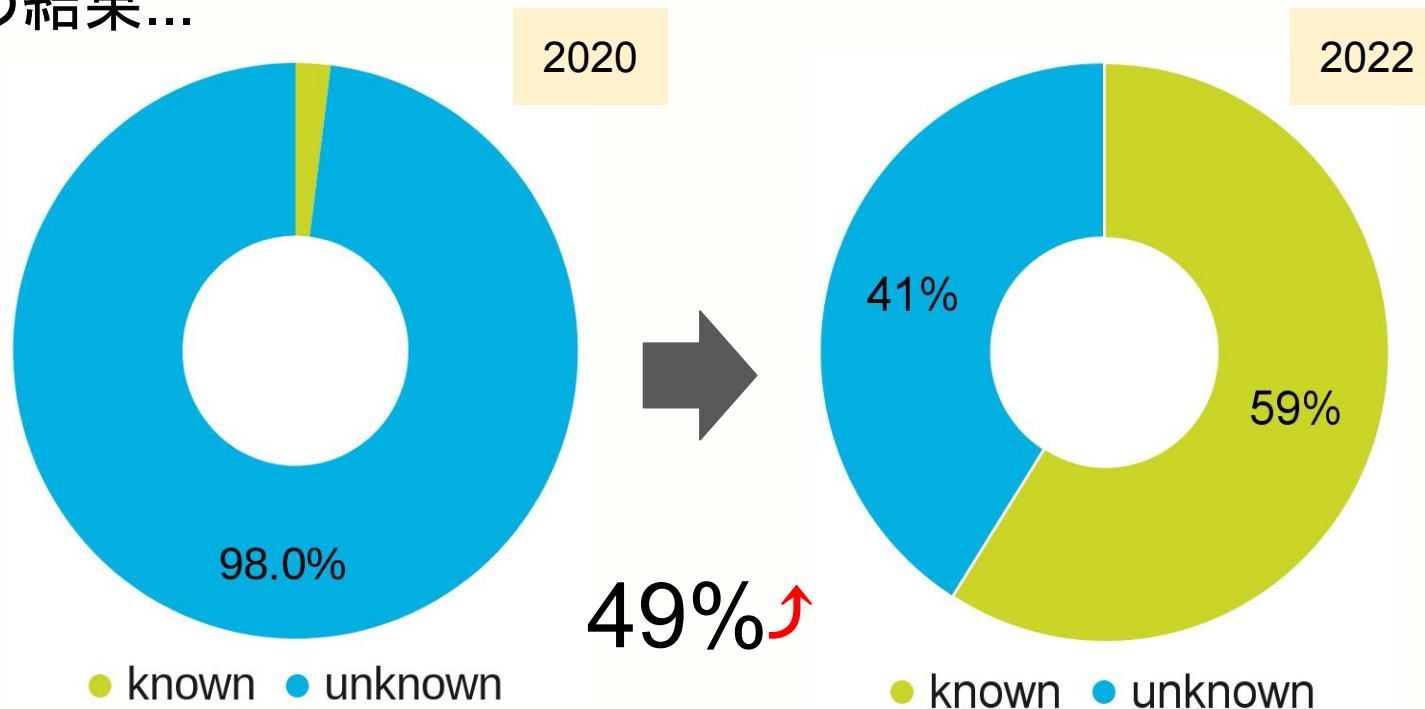


日本はフェアトレードの普及で先進国の中で遅れを取っている

そこでフェアトレードの普及を進めるため、実際に

文化祭や保護者会でフェアトレードの商品を販売、啓発を行った!

その結果...



認知度は
劇的に上昇した

この場合の認知度とは単に名前を知っているかではなく、内容まで理解しているかを指す

校内での活動が安定して、フェアトレードが定着したため、学校外での啓発活動にも取り組み始めた。

また、これまでの活動からいくつかの課題点も見つかったため、それを解決する方法を考えた。

課題点

売っている店が少ない

見かける機会が少なく認知が進みにくい

値段が高い

日常での継続的な購入が難しい

商品の種類が少ない

消費層に偏りがやすい



地元の店と協力して

商品開発 を行った



1. 地域のお店と協力することでそこに住む人達にアピールできる

2. 自分たちで商品案を出し、販売を行うことでコストを削減

↳ クッキー200円/マドレーヌ130円

3. 好きな商品を作成できるためターゲットをひろくとれる

↳ クッキーとマドレーヌは子どもにも人気

作成した商品はこれまでに合計で1500個以上販売したが新たな課題も見つかった。

地域のお店は**発信力が弱く**、
また、別で発注しなければならないフェアトレードの原料を使用して**継続的にお菓子をつくるのが難しい**

⇒ 食品販売を行っている**より大きな企業**と協力することで解決できるかもしれない

有名であれば発信力は高くなり、大きければ1から普及を進める体力もあると考える

また、**若年層に焦点を当てた活動**も効果的かもしれない

現在は教科書にフェアトレードの言葉が記載されていることも多く、10代のFT認知度は比較的高い。
事前知識があるため取り込みやすく、SNS等での発信力も優れているため、より効率的に普及できる。

